

大雨・台風に備えましょう!!

警戒レベルで避難のタイミングをお伝えします。

早め早めの行動が命を守ります

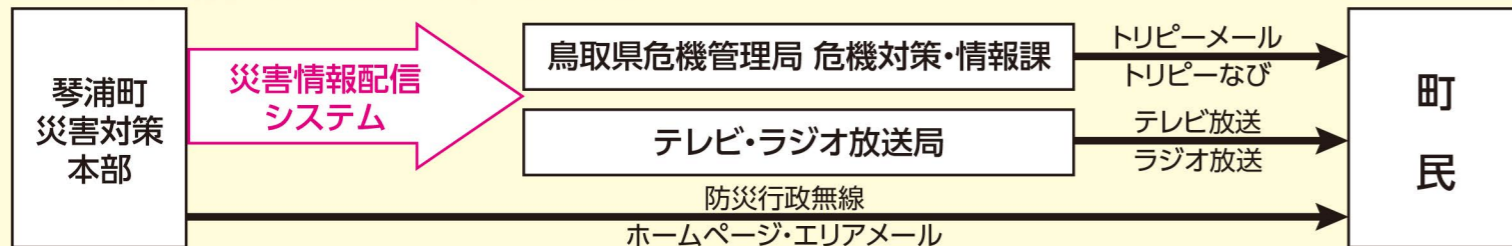
テレビ、ラジオ、気象庁ホームページなどで、最新の防災気象情報を収集するように心がけましょう。危機を感じたら自主的に避難することが重要です。「自分は大丈夫」と思わず、早めに避難しましょう。この「琴浦町防災マップ」を活用し、周辺の危険箇所・避難場所を確認しておきましょう。

避難の情報

気象庁が発表する気象情報をもとに、琴浦町が避難情報を防災無線、町ホームページ等でお知らせします。下表を参照にして、適切な行動をお願いします。

警戒レベル	避難情報	気象情報	町民がとるべき行動
5	災害発生情報	大雨特別警報 氾濫発生情報	すでに災害が発生している状況です。 命を守るための最善の行動をとってください。
4	避難指示(緊急) 避難勧告	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報	危険な場所から、速やかに避難してください。 避難場所までの移動が危険と思われる場合は、 近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所 に避難をしましょう。
3	避難準備・高齢者等避難開始	大雨警報(土砂災害) 洪水警報 氾濫警戒情報	避難に時間を要する人(高齢者、体の不自由な 方、乳幼児等)とその支援者は、危険な場所から 避難を開始してください。その他の人は、避難の 準備を整い次第、危険な場所から避難を始めてく ださい。
2	-	大雨注意報 洪水注意報 氾濫注意情報	避難に備え、ハザードマップ等により、 自らの避難行動を確認してください。
1	-	早期注意情報 [警報級の可能性]	災害への心構えを高めてください。

避難情報伝達経路図



自主防災組織

自主防災組織とは、地域住民が協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために活動することを目的に結成する組織のことです。

平常時

災害に備えた取り組みを実践します。

取り組み事例

- 地域の安全点検
- 地域での避難場所、避難経路の設定や確認
- 地域住民に対する防災知識の普及・啓発
- 防災資機材の整備・点検
- 自力で避難や移動が困難な方などの確認
- 防災訓練など

災害時

災害による被害を最小限に食い止める活動や、地域の復旧・復興に向けた様々な取り組みを行います。

取り組み事例

- 避難誘導
- 初期消火
- 救出・救護
- 情報の収集・伝達
- 給水・給食
- 避難所の運営
- 地域の巡回・安全点検など

自主防災組織の育成・支援

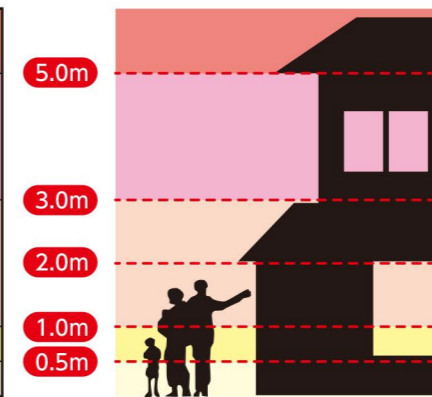
地域の防災力を強化し、災害による被害の防止・軽減を図ることを目的として、自主防災組織の防災資機材整備に要する経費の一部を補助するほか、防災に関する出前講座などを実施しています。

詳しくは、総務課防災危機管理室(TEL:0858-52-2111)までお問い合わせください。

洪水に備えて

浸水深の目安

2階の屋根以上が 浸水する程度	5m以上の区域
2階まで浸水する程度	3.0~5.0m未満の区域
1階まで浸水する程度	1.0~3.0m未満の区域
床上浸水	0.5~1.0m未満の区域
床下浸水	0.5m未満の区域



- 洪水リスク図は「50年に1度の大雨」を想定して作成しています。
- 川がはん濫しない場合でも、低い土地などは床上床下浸水などが起こる場合があります。
- 実際は、想定と異なる浸水深になったり、地図に表示された浸水区域以外にも浸水することがあります。

川の氾濫(浸水)

雨量の増加によってもたらされる氾濫(浸水)には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水による氾濫(浸水)」と、街中の排水が間に合わず、水路などからあふれ出す「内水による氾濫(浸水)」の2タイプがあります。本書の洪水浸水リスク図は、外水氾濫の場合を記載しています。

外水による氾濫(浸水)

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すので、最大の注意が必要。



内水による氾濫(浸水)

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはげきせずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



大雨・洪水の時はどうして避難

●足元に注意

水中の溝等に注意し、長い棒を杖代わりにして確認しましょう。道路は出来るだけ真ん中を歩きましょう。



●ロープにつながって

小さい子供などは大人とロープで体をつなぎましょう。



●子供やお年寄りを安全に

足の不自由なお年寄りは背負い、小さい子供はベビーバスに載せる方法もあります。



●車は使わず、歩いて避難

あらかじめ決めておいた、よく知っている避難コースを通りましょう。



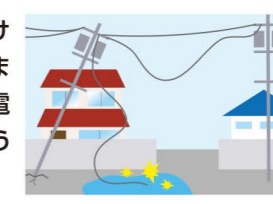
●ひざ上まで水につかると歩きにくくなります。

洪水の中での避難はできるだけ避けましょう。歩ける水の深さは50cm程度が限度です。



●危険なところは避ける

塀ぎわ、狭い道、がけや川のそばは避けましょう。垂れ下がった電線には近づかないようにしましょう。



その他避難の時に注意すべきこと

- 家に避難先、安否状況のメモを残す



避難するときの服装のポイント

- ヘルメット等
- 長そで、長ズボン
- 長靴は水が入るとかえって動きづらくなるので×、水中でも脱げにくい歩きやすいひも靴は○
- 軍手、手袋
- 非常持ち出し袋